

2026年度 世田谷トラストまちづくり活動助成事業

審査講評

まちづくり活動部門

【2回目応募グループ】

< 3-1 ワクワクぼうさい >

防災を身近なものにするために、絵本やお菓子など日常に近い入口をつくろうとする工夫や発想力に可能性を感じました。一方で、商品づくりやイベント出店による認知拡大だけではなく、その過程を通じて地域の中にどのようなつながりや主体性が生まれるのかをより意識していただきたいと思います。

防災は特定の誰かが届けるものではなく、地域に暮らす一人ひとりが当事者になることで力を発揮するテーマです。絵本やお菓子が単なる啓発ツールに留まらず、人と人との対話を生み出し、日頃から支え合える「顔の見える関係性」を育むきっかけとなっていくことを期待しています。

< 3-2 緑道愛好会にわにわ >

世田谷区内の緑道は多くの市民の癒やしの場、心を豊かにする場となっています。この緑道を笑顔の拠点として持続可能なまちづくりを進める活動はとても大切だと思います。「植物とご縁をはぐくむ街の庭」のさらなる具体的な推進は市民の心身の健康にもつながるものと期待しています。緑道は区の公園管理事務所の管轄ですがやりきれない部分を市民活動として無理なく持続できる仕組みの構築をよろしくお願いします。

< 3-3 Slow Food Community SetaBio >

食を基点として地域住民・農家・教育関係者を繋いできた事を背景に、学校内菜園へのサポートを通じて、社会への実装に挑戦するところまで活動を深められてきました。

具体的な場所での展開は、さまざまな関係者との調整などこれまで以上に大変なこともあると思いますが、農ある世田谷を暮らしの中で体感することは地域文化を育む大切な活動だと思います。